

大規模災害後の避難所の食事で

特定の栄養素が不足していたことが判明

～震度 7 を記録した熊本地震発生 1 か月後の避難所 35 か所の食事記録を分析～

大規模災害が発生するとライフラインが寸断され、住民は避難所などへの移動を余儀なくされます。日本では、緊急支援として被災者への飲料水や食料の提供が行われていますが、提供される食料には栄養面での課題があることが報告されています。

2016 年 4 月に発生した熊本地震は、震度 7 を記録しました。熊本地震の発生から 1 か月後に熊本県内の避難所 35 か所で提供された食事のエネルギーと栄養価を計算し、栄養不足について検討しました。

この研究結果について、2024 年 11 月 25 日～26 日に韓国ソウルで開催されるアジア太平洋災害医学会 (The 15th Asian Pacific Conference on Disaster Medicine : APCDM 2024)において、ポスター発表を行います。

なお、本研究は、2024 年度科学研究費補助金基盤研究©の助成を受けて実施しました。

(学会発表の概要)

熊本地震の発生から 1 か月後の 2016 年 5 月に熊本県内の 35 か所の避難所で提供された食事の記録から、エネルギー及び栄養量を算出しました。避難所を 2 つのエリアに分け、健康の維持・増進のためのエネルギー及び各栄養素の摂取量の基準を示した「日本人の食事摂取基準 2020 年版」と比較しました。比較した結果、2 つのエリアで提供された食事についてエネルギーに差はなかったものの複数の栄養素で差が見られました。また、ビタミン B₁ やカルシウムはどちらのエリアの避難所においても推定平均必要量を満たす食事は提供されていませんでした。

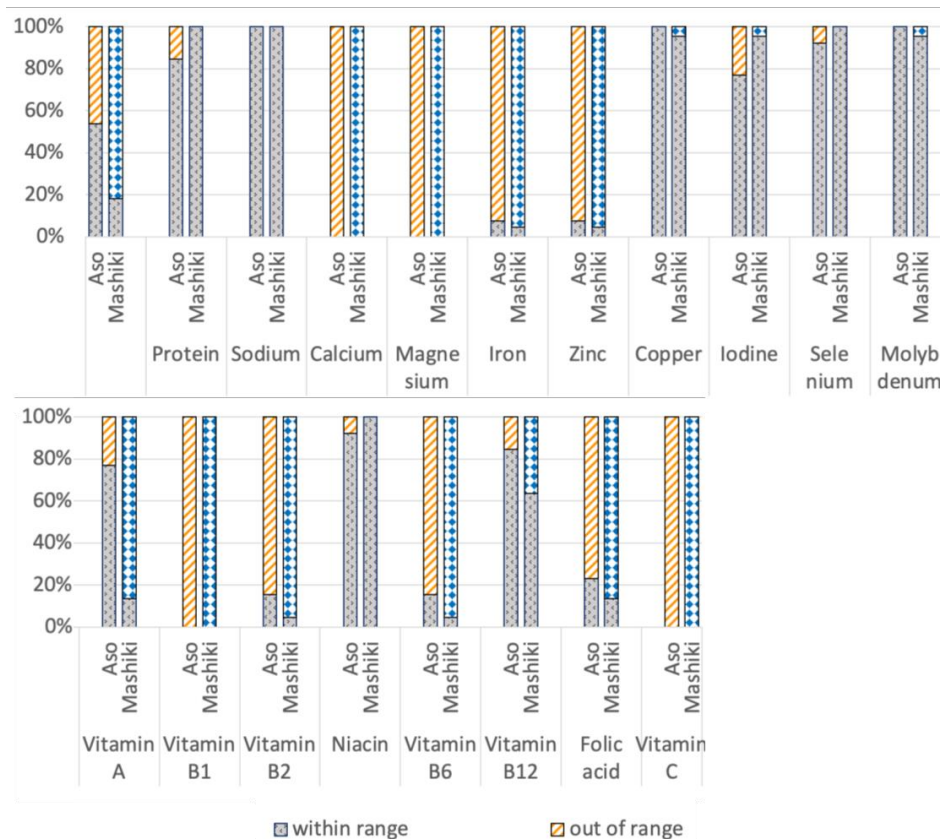


Fig. Assessment of energy and nutrient deficiencies provided

学会発表情報

○タイトル

Energy And Nutrient Composition of Meals One Month After the Kumamoto Earthquake and Comparison Results

○発表者名

久保 彰子、小澤 啓子、今井 里佳*、久野 一恵*

*共同研究者（所属：西九州大学）

○学会名

アジア太平洋災害医学会（The 15th Asian Pacific Conference on Disaster Medicine : APCDM 2024）

○連絡責任者

女子栄養大学 久保 彰子准教授

お問い合わせ先

学校法人 香川栄養学園（女子栄養大学）

広報部 学園広報課

TEL 03-3915-3668

FAX 03-3915-3635

E-mail gkoho@eiyo.ac.jp